令和５年度第２回宮代町立小・中学校一貫教育推進委員会の
会議録

１　日時・場所

令和６年３月７日（木）１５：００～１６：００

役場庁舎２０２会議室

２　出席者

審議会委員：１４名出席

上田委員長、齋藤委員、木村委員、金野委員、塚越委員、髙野委員、山口委員、谷委員、栗原委員、長井委員、白井委員、大木（向井）委員、金子（栗原）委員、石井委員、土渕委員、山本委員

事務局：教育推進課：竹内学校管理幹兼副課長

３　開会

４　挨拶

上田委員長から挨拶

５　議事

令和５年度教育行政重点施策の「中学校区を中心とした特色ある小中一貫教育の推進」について説明後、各中学校区の実践について資料を基に発表があり、その後、協議を行った。

上田委員長：各校の発表ついて、御質問、御意見のある方はいらっしゃいますか。白井委員さんSプランについていかがでしょうか。

白井委員：特別支援学級の小・中学校の交流はありますが、通常学級の交流は少ないような気がしました。また、先生方がプランを出して行う活動はあるけれども、子供たちがプランを立てて交流し、やり遂げる活動を入れていくとよいと感じました。

上田委員長：金野委員、何か御意見ありますか。

金野委員：須賀地区は地の利があり、かつ、ICT の利便性を考えて、短時間で価値ある交流ができます。本校は令和９年に向けて校舎をリニューアルし、地域の公民館施設も入ってきます。中長期的に子供たちが自ら考える総合的学習のカリキュラムを見直していく必要があります。そこで小中一貫の要素や地域との交流を含んだ、子供たちが主体的に学んでいける取組を段階を踏んで進めていきたいと考えています。特別支援学級の交流はとても良いものなので、更に進めていきます。

上田委員長：石井委員、御意見ありますか。

石井委員：PTA 会長の立場としても、先生方には非常によくやっていただいていると感じています。PTA の方もせっかく、小・中が隣同士なので、今月末、須賀小・中学校の校長先生と PTA 会長の話し合いで来年度の引き渡し訓練を中学校も一緒に行う計画を立てています。地域での防災ということで、中学生が小学生を迎えに行き、その場で、地域と一緒に防災訓練を行うという防災教育を計画しています。資源回収については、今は中学校だけが行っていますが、それを小学校、地域と

共に行っていくことで、触れ合える機会を持てればと考えています。PTA だけでなく、PTCA で進めていければと考えています。須賀小・中学校を中心とした取組が､地域にも広がっていけるような取組を PTA としても進めていきたいです。そして、皆さんの御意見をいただきながら、小中一貫教育に協力できるような取組を進めていきます。

上田委員長：土渕委員ゆずり葉プランについて御意見ありますか。

土渕委員：私も PTA 会長を務めさせていただき、学校へ行く機会が多いです。小学生と中学生の交流の様子を見て、小学生が中学生の出すクイズを解いて喜んでいたり、中学生がその様子を見守っていたりする姿を見てほほえましく思いました。こういう様子を地域の方が見られる環境があったらよいと思いました。

上田委員長：金子委員いかがですか。

金子（栗原）委員：代理で来ました栗原です。学級閉鎖や熱中症アラートが出て、実施できなかった行事があったことは残念でしたが、来年度以降状況がよくなれば、ぜひ、この活動は進めていただきたいと思いました。東小学校と笠原小学校の２校の児童が百間中学校へ進むので、その２校の交流が入学前にできたら、より豊かな中学校生活が送れると思いました。自分の子供の様子を見て感じました。中学校と小学校の交流を続けていただきながら、どこかで小学校同士のつながりも持てると嬉しいです。

上田委員長：栗原委員、いかがですか。

栗原委員：コロナの影響もあり、子供たちは人間関係作りが以前より苦手になってきています。できることをどんどんしていただいて、よい意見だと思います。マンモス校で、今年、３・４・４学級が来年は４・４・４学級になり、その後、５学級もあるように聞いていますので、そういう中でもまれていく、貴重な経験させながら子供たちを育てていこうと考えています。

上田委員長：髙野委員、いかがですか。

髙野委員：小小連携と言われた時期もあってそういったことも重要だと思いました。学校運営協議会が各校であると思うのですが、学校運営協議会も同じ地区で交流ができたらという意見がありました。地域で育てる子供たちを小学校も中学校も見ていきたいという御意見がありました。そのようなところで広げていくのも一つではないかと感じました。

上田委員長：M プランについて山本委員、いかがですか。

山本委員：６年生を対象としている内容が多いので、前原中学校は PTA のバザーをし、その中に小学校の生徒さんに来ていただき、学年関係なく交流が持てました。地域と中学校と小学校のつながりが持ててよかったです。９年間ということを考えると、また別のやり方もあるのではないかと思いました。運動会を合同で行うとか、音楽祭を合同で行うとか、イベントごとに合同でできることがあればもう少し交流が持てると感じました。現実的にできるようであれば保護者としても１日

で小・中学校を見られるというメリットがあります。６年生だけでなく、９年間というスパンで見ていくのであれば、そのような取り組み方もあるのではないでしょうか。

上田委員長：大木委員お願いします。

大木（向井）委員：代理で来ました百間小 PTA 会長の向井です。６年生でないとどういうようになるのかというビジョンがないので、前原中学校へ行ったらこうなれるよという、子供たちにも、保護者にもわかりやすいようなビジョン、期待が持てるような９年間を作っていきたいと感じます。また、イベントごとの交流ですが、小学校の音楽会に中学校が１クラス参加して最後に披露していただければ、保護者も、子供も、中学生になればこういうふうになれるんだと成長の憧れがもてますから、次年度、実現したらいいなと願いをもって発言します。運動会でしたら、競技を１つ加えて中学生に走っていただいたり、小学生と共に二人三脚していただいたりできたら、前原中学校へ行きたいという子供たちが増えてくるという期待を持ちたいです。

上田委員長：全体を通して、各学校区のプランについてお聞きしたいことはありますか。なければ、木村委員、お願いします。

木村委員：各校で行事等を工夫していただき、小・中学校がつながって子供たちが育っています。先生方には感謝しかありません。オンラインのよさと対面のよさを工夫しながら使って交流を図ってきたことはよかったと思います。自分の子供は笠原小で百間中へ行きましたが、町内音楽会、町内綱引き大会、町内かるた大会、県のかるた大会、スキー教室などの中で、東小学校の友達と顔見知りになり、中学校へ行ったときに多少の意思疎通が図れ、初対面よりは話ができました。小学校へ中学生が来て、陸上や金管を教えてくれたりして、恵まれていました。須賀中学校の合唱を聞いて、憧れをもって須賀中に進学する子もいました。コロナ前のようにこのような小学生、中学生が関われる活動が戻ってくるとよいと思いますし、ハイブリットを活用した交流も工夫して入れられればよいと思いました。９年間で子供たちを育てていくという中で、情報教育や SNS、ICT 教育を大事にしていっていただきたいです。子供たちが ICT を自ら使っていく中で、正しい情報の発信の仕方や情報の選び方、自分の発信が人を傷つけていないか、いじめや犯罪につながらない活用の仕方等についても計画的に指導していただければありがたいです。成人式で小・中の先生に来ていただき、大変喜んでいました。いつまでたっても小・中の先生には愛着があり、宮代の先生方の御努力には感謝しかありません。

上田委員長：齋藤委員、お願いします。

齋藤委員：小中一貫の取組はかなり前からいろいろな地域で進められていて、新たな取組が難しくなっています。そんな中で、新たなものに取り組んでいくということは素晴らしいことだと考えます。私の疑問についてお話させていただきます。１つは、

「生徒指導をつなぐ」ということです。どんなふうにつなごうとしているのか、小・中の生徒指導は明らかに違うと思います。例えば、名前の呼び方から。集団を大事にしたり、個を大事にしたり、子供たちの扱い方が明らかに違うと思うのです。生徒指導のカルテというようなものがあるでしょうか。すべての子供たちに対して生徒指導をつなぐことをどのようにやっているのか、生徒指導がうまくいったというのは、小・中で指標のようなものがあるのかを知りたいです。２つ目は、教科指導についてです。小・中では、確認テストが明らかに違います。小学校は市販のテストを使います。中学校は自作のテストを使います。明らかに一貫ではありません。最近では、中学校の自作のテストにも小学校と同じように観点が示されるようになりましたが、なぜ、小・中で異なったテストを使うのか、疑問をもっています。そして、教科指導にも指標が必要です。全国学調と県学調の結果も出ているんですか。それは、どういう傾向にありますか。一貫教育をしているのであったら、それは伸びていますか。伸びていないんですか。やっていることが、おかしいかどうか、指標がないとわからないと思います。それがなく、これ、どうですかと言われても、意見にはならないと思います。学力を上げようと思っているのに上がらなかったら、別の方法が必要なのではないかと考える必要があると思います。そうやってものを考えた方がよいのではという１つの意見です。

上田委員長：今、２つ意見が出ましたが、初めの生徒指導の共通性について、校長先生方から御意見を伺ってもよろしいでしょうか。教科指導については、また次の機会にお願いします。

金野委員：S プランですが、本校では須賀中学校の挨拶に近づけたいということで、須賀中の挨拶指導、生徒の実態、本校児童の実態の把握を教員がし、本校の子供たちに挨拶指導の具体を進めてきたところです。その結果、非認知能力の中の子供たちの挨拶の自己肯定感が高まりました。これが１つの結果です。つまり、目指すは須賀中の挨拶です。それに向けた実効的な挨拶指導を１年間取り組んできました。

上田委員長：長井校長先生、いかがですか。

長井委員：生徒指導をつなぐということで、齋藤先生がおっしゃった視点は、１つの提言であったと思います。子供の見方は、確かに小・中で違うところもありますし。この違いのギャップを埋めるために、毎年、夏休みにどのプランでも先生方が合同の会議をして、士気を上げていっていると思います。指標は、生徒指導についても、教科指導についても、その通りだなと思いました。何を指標にするのかになると思いますが、例えば、学校生活に対する満足感だとか、そういったものを小・中学校で共通のアンケートをとって、やっていき、高くなったか、低くなったか、そういう指標がないと確かに、成功の方向に行っているのか、それとも現状維持なのか、落ちていっているのかわからないですから、そういったことも次年度、

今日のお話を受けて検討しながら、すぐ形になるかわかりませんが、方向としてはそうなんだろうなと、お話を聞いて思ったところです。

上田委員長：最後に私からです。小中一貫の取組があまり変わっていないと周りから見える、逆に言うと定着してきているということです。他の地域は、こんなにやっていません。まず、会議そのものがありません。中学校と小学校を行ったり来たりすることがない市もあります。まず、定着しているということを抑えなければいけません。更にもう一歩進めるということが、齋藤先生の御意見ではないかなと思います。バザーと防災の件が石井委員から出ましたが、皆さん、バザーって何でしょう。私が、ある学校の校長になった時、PTA 会長がバザーをやめてほしいと言いました。お金が欲しいなら１軒１軒、１口いくらというふうに集めたらよいのではないですかと言ってきました。その時、バザーをどのように捉えたらよいかと思い、調べました。英語でバザー、ドイツ語でバザール、公共事業の活性化を図るための慈善市でした。このことについて PTA 会長に伝えたところ、実施することになりました。みんなが協力して、学校を盛り上げていくんだということ、バザーをやるということ自体、活性化したことになります。それを、須賀小・須賀中で合同でやりたいという話し合いが進められることはとてもよいと思いました。防災の件も出ましたが、県の防災課の人たちが、能登、輪島の件で一番力になるのは小学校高学年から中学生ということです。自主防災に取り組んでいってもらえたらと思います。最後にもう１つ、先日、須賀小学校の感謝の会で、交通指導員として呼ばれて伺いました。受付に行きましたら、代表で挨拶する人が欠席のため、代わって挨拶をしてくださいと言われました。突然で困りましたが、クイズを出しました。クイズ①須賀小のキャラクターは何ですか、と言ったら即、大きな声で「すっかー」と返ってきました。クイズ②合言葉は何ですか、と言ったら「元気いっぱい」と返ってきました。これが、小学校には浸透しています。須賀中では「全力」が浸透しています。百間小では「全力投球・心配り」がどの子も言えるということで、他の全部の学校も浸透していると思います。これが各プランの基になっていると思いますので、これを大事にして、斎藤先生がおっしゃったように 0.1 歩でも進めば大成功ではないでしょうか。行田市が小中一貫校を３校つくるという内容が新聞に載っていました。その前は春日部でした。宮代にも小中一貫校はできないのですかねという声が年々増えてきています。今後も、小中一貫教育を推進していくようお願いします。

６ その他

事務連絡

７ 閉会